

株式会社創風システム(総合情報サービス業・プロバイダ: 柏崎市田中20番22号)

■ 何から何まで自分で考えていかなければならないのは たまらなく楽しい

新春の1月11日、株式会社創風システムに代表取締役の石塚修氏を訪れた。常に万全の備えであろうか、センスの良さややかなインテリアが飾られた応接室には、黄色いヘルメットが置かれていた。

聞き手◆昭和63年に5人でスタートしたとお聞きしたのですが、45歳での起業のきっかけは。

石塚氏◇古い建物が手に入ったので、中学生向けの塾をやっていたんだけど、子供たちの冬の送り迎えが大変でねえ。パソコンを塾に使えないかと考えたんだよね。結局のところ、当時のパソコンは塾には使えなかったけど、電話で文字が送れることに感動してねえ。

趣味でも、当時、全国で2番目の熱気球を作ろうとしてたんだけど、全国に居た仲間とのパソコン通信は画期的でね。そのうち、こんなにおもしろいものをユーザとして使うよりも、自分でやってやろうと考えるようになってね。

◆当時の事業はどんなものだったのでしょうか。

◇趣味の時代で商売にならなかったよ、ビジネスモデルがない時代だからね。最初の年は大赤字、次は黒字になったけど、また次は大赤字になってね、生きるか死ぬかの瀬戸際だったよ。でもねえ、何から何まで自分で考えていかなければならなかったのは、たまらなく楽しかったねえ。

◆平成7年にKISNET(インターネットプロバイダ)を開局されていますね

◇開局したのは1995年になるが、Windows95のリリースがあったり、世の中がすごくおもしろかった。大企業でもインターネットをビジネスモデルにすることをあまり考えていなかっただろう。柏崎にプロバイダを作ろうと言った時点では、まだ県内にネットワーク幹線が来ていなかったが、インターネットの将来性が確実であるとの確信を得ていたよ。

◆中越沖地震では、長時間にわたり停電したようですがシステムへの影響はあったのでしょうか。

◇中越沖地震は対策をとっていたので影響はなかった。中越地震が教訓だったよ。通信は、一番大事なライフラインであり、絶対にストップさせてはいけないからね。2回線、2拠点は必須だよ。中越地震のときは、ホームページ



石塚修氏 アイデアを話されるときの笑顔が印象的

は生きていたが、メールが止まってしまってね。このときは、悔しくて眠れなかったよ。今は、光ケーブル回線を、長岡、海岸、十日町、東京直通の4回線用意して、非常時に備えている。ただ、まだ完全ではないんだよ。すべて有線だからね。20年度の私のテーマは衛星通信だよ。

◆5年連続してマイクロソフトMVPを受賞した社員がいますね。

◇青山研究室^{*1})に入れてもらって、オブジェクト指向プログラミングに足を踏み入れてね。あれで世界につながっちゃったんだよ。あのような若い人たちをどうやって地元に残すかが大切だと思う。せっかくの人材でも、ネットワークがないと、地方で埋もれてしまうからね。環境を整えておくことだね。人間、自分の好きなことをやっているときが一番楽しいからね。

◆人材育成における特徴は何でしょうか。

◇うちは、ソフトウェア産業でも特殊な部類で、総合情報サービス業といってね、顧客が必要とする情報関連業務全てを社員がオールインでお届けするシステムなんですよ。お客様が喜ぶことが一番楽しく、それを見もらうことが一番の教育だよ。